

減価償却計算プログラムの説明
マクロ編

V 5 . 2

平成 2 1 年 2 月

小林誠一郎

マクロ計算の解説です。

入力画面から計算画面にデータを転記し、その結果を元の入力画面に戻すマクロの説明を最初にします。

このファイルは26事業所分のデータが利用できるようにしています。26枚のシートはすべて同じものですが、違う部分が表の名前です。この表の名前を読み取り、この表に利用者が入力したデータだけを、計算表に転記します。転記が終われば、計算が終わっていますので、計算されたデータを元のシートに戻します。これが { 計算 } ボタンを押したときの作業になります。

シートにいくつかの式があります。

セルC 1	=T(MENU!D5)	事業所名です。
セルH 4	=T(MENU!E28)	住所です。
セルN 4	=T(MENU!D5)	事業所名です。
セルP 4	=T(MENU!E28)	納税者番号です。

上のデータはこのシートの確認するため印刷のときに使います。

次の式はデータ転記に利用している部分です。

セルJ 2	=COUNT(F:F)	F列にある数値データのカウント
セルL 2	=COUNT(P:P)-1	P列にある数値データのカウント
セルX 1	=CELL("FILENAME",C1)	パスを含むシート名
セルX 2		シート名のみ

=MID(CELL("FILENAME",C1),SEARCH("]",CELL("FILENAME",C1),1)+1,100))

セルX 1は参考のため。無くても良い。セルX 2の式を理解するのに置いてあります。今回、改めてこの関数のヘルプを見ました。C 1がなんのためあるのか、わかりません。無くてもエラーは起こらないようです。为什么呢。

{ 計算 } ボタンには次のマクロが登録されています。

このマクロは 転記計算 のあとにメッセージを表示するものです。

Sub 転記計算 A()

 転記計算

ここが実際の作業マクロ部分です

 MsgBox "計算終了。割増償却や除却、譲渡などの場合は手入力してください。"

End Sub

次のマクロが実際の作業の部分です。

最初に I F 関数で作業を行うかどうか聞いていますが、今ではこの形に書かないですね。セル J 2 が 0 でなければ 次の行以下の作業を実行します。という I F 関数ですが、どこで作業が終わるか、分かりにくい。

最初に セル J 2 が 0 ならば 作業はしない。今なら

```
If Range("J2") = 0 Then
    MsgBox " データがありません"
Exit Sub
End If
```

としますか。今はデータが無いと本当に何もしません。メッセージの表示がはなないです。

次の説明からは、モジュールシートからのマクロを掲載し、説明を加えていきますが、この説明のために書き加えた部分の色を変えておきます。色がなない部分は元のマクロと説明です。

```
Sub 転記計算()
If Range("J2") <> 0 Then
    Dim zz As String
    zz = ActiveSheet.Cells(2, 24).Value
    Application.ScreenUpdating = False
    Sheets("計算表").Visible = True
    Sheets("計算表").Select
    ActiveSheet.Unprotect
    Range("a7:f1000,i7:i1000,k7:k1000,o7:o1000,t7:t1000").Select
    Selection.ClearContents
    Range("a1").Select
```

マクロの開始

変数 zz 文字列で宣言

ここにはシートの名前が入ります

'X2 の文字をセット (表名)

セル X 2 の内容を zz に代入

画面の動きを表示させない

シートの再表示です

計算シートを選択します

計算表の従前のデータを消去する 1 0 0 0 行

シート保護の解除

計算表のデータを転記してくる範囲です

行数は 7 行目から 1000 行を指定しています。実際に必要な範囲は 100 行です

A 列から F 列まで、I 列、K 列、O 列、T 列

上記で選択した範囲の内容をクリアしています

カーソルをセル A 1 に置きます (整理、整頓)

データシートを選択します

Sheets(zz).Select '現在のシートを選択する。
Dim AA As Integer 変数 AA 整数で宣言
AA = ActiveSheet.Cells(2, 10).Value 'J2 の数値をセット (データ件数)
BBa = "a7:" & "f" & AA + 6 '北°-範囲: 計算方法から取得価額まで
BBb = "i7:" & "i" & AA + 6 '北°-範囲: 耐用年数
BBc = "k7:" & "k" & AA + 6 '北°-範囲: 償却期間
BBd = "o7:" & "o" & AA + 6 '北°-範囲: 事業割合
BBe = "t7:" & "t" & AA + 6 '北°-範囲: 期首未償却残高
BBj = "m7:" & "m" & AA + 6 '北°-範囲: 割増償却費 V1.6 で追加

転記するデータの範囲をあらかじめ準備します この変数の宣言はしていない
変数の宣言は必要だと思いますが、無くても不都合が起こっていないと思う
入力したデータの範囲 7 行目からセル J 2 の数値にデータ件数があります
その数値に 6 を加算したものがデータのある最後の行になります

Range(BBa).Select 範囲 BBa を選択します

Selection.Copy 選択範囲をコピーします

計算シートを選択します

Sheets("計算表").Select '形式を選択して貼り付け 値のみ

Range("A7").Select セル A 7 を選択し、貼り付けをします

Selection.PasteSpecial Paste:=xlValues, Operation:=xlNone, _

SkipBlanks:=False, Transpose:=False

Application.CutCopyMode = False コピーモードを解除します

データシートを選択します 以下 5 回繰り返します

Sheets(zz).Select

Range(BBb).Select

Selection.Copy

計算シートを選択します

Sheets("計算表").Select '形式を選択して貼り付け 値のみ

Range("I7").Select

Selection.PasteSpecial Paste:=xlValues, Operation:=xlNone, _

SkipBlanks:=False, Transpose:=False

Application.CutCopyMode = False

データシートを選択します

Sheets(zz).Select

Range(BBc).Select

Selection.Copy

計算シートを選択します

```
Sheets("計算表").Select '形式を選択して貼り付け 値のみ  
Range("K7").Select  
Selection.PasteSpecial Paste:=xlValues, Operation:=xlNone, _  
SkipBlanks:=False, Transpose:=False  
Application.CutCopyMode = False
```

データシートを選択します

```
Sheets(zz).Select  
Range(BBd).Select  
Selection.Copy
```

計算シートを選択します

```
Sheets("計算表").Select '形式を選択して貼り付け 値のみ  
Range("O7").Select  
Selection.PasteSpecial Paste:=xlValues, Operation:=xlNone, _  
SkipBlanks:=False, Transpose:=False  
Application.CutCopyMode = False
```

データシートを選択します

```
Sheets(zz).Select  
Range(BBe).Select  
Selection.Copy
```

計算シートを選択します

```
Sheets("計算表").Select '形式を選択して貼り付け 値のみ  
Range("T7").Select  
Selection.PasteSpecial Paste:=xlValues, Operation:=xlNone, _  
SkipBlanks:=False, Transpose:=False  
Application.CutCopyMode = False
```

データシートを選択します

これが最後です

```
Sheets(zz).Select 'v1.6 で追加 割り増し償却分  
Range(BBj).Select  
Selection.Copy
```

計算シートを選択します

```
Sheets("計算表").Select '形式を選択して貼り付け 値のみ v1.6 で追加  
Range("M7").Select  
Selection.PasteSpecial Paste:=xlValues, Operation:=xlNone, _  
SkipBlanks:=False, Transpose:=False  
Application.CutCopyMode = False
```



```

Sheets(zz).Select          '形式を選択して貼り付け    値のみ
Range("J7").Select
Selection.PasteSpecial Paste:=xlValues, Operation:=xlNone, _
    SkipBlanks:=False, Transpose:=False
Application.CutCopyMode = False
計算シートを選択します 3
Sheets("計算表").Select
Range(BBh).Select
Selection.Copy
データシートを選択します
Sheets(zz).Select          '形式を選択して貼り付け    値のみ
Range("L7").Select
Selection.PasteSpecial Paste:=xlValues, Operation:=xlNone, _
    SkipBlanks:=False, Transpose:=False
Application.CutCopyMode = False
計算シートを選択します 4
Sheets("計算表").Select
Range(BBi).Select
Selection.Copy
Range("A1").Select
データシートを選択します
Sheets(zz).Select          '形式を選択して貼り付け    値のみ
Range("P7").Select
Selection.PasteSpecial Paste:=xlValues, Operation:=xlNone, _
    SkipBlanks:=False, Transpose:=False
Application.CutCopyMode = False
計算シートを選択します    転記終了
                                ここからは計算シートのクリアです
Sheets("計算表").Select    '計算表のデータを消去する 1 0 0 0 行
Range("a7:f1000,i7:i1000,k7:k1000,o7:o1000,t7:t1000").Select
Selection.ClearContents
Range("a1").Select
ActiveSheet.Protect        シートの保護をする
計算シートを選択します
Sheets("計算表").Visible = False    シート「計算表」を非表示にします
Application.ScreenUpdating = True    画面の動きを表示します

```

データシートを選択します

Sheets(zz).Select

Range("A1").Select

カーソルをセルA 1 に置きます (整理、整頓)

'ActiveWindow.SmallScroll ToRight:=-9

これは活かすべき行ですね

画面を移動させてみやすくするつもりです

このメッセージ表示はv 3 0 から。v 5 2 で更に変更

練習データの耐用年数欄に - を入力の場合 エラーになるので回避

(セルAL6の式変更) メッセージ表示 2009/2

If 再取得 <> 0 And 再取得 <> 1000 Then

MsgBox 再取得 & " 件のデータが定率法の資産の中で保証金額に足りません。
定額法(14)に変更してください。 "

ElseIf 再取得 = 1000 Then

MsgBox "データ入力不備です。耐用年数欄に数値以外を入力しないでください"

End If

5行上の Ifの終了

End If

作業の終了 これが一番最初にあった Ifの終わりです。遠すぎる。

End Sub

マクロの終了

このファイルは26事業所分のデータが利用できるようにしています。

エクセルはシートに左側から順番に1からスタートする連続番号をつけています。連続計算はシートの名前は考えていません。MENUシートのセルI 6に開始番号を入力し、セルK 6に終了番号を入力します。セルI 7に式 =I6+1、セルK 6に式 =K6+1。これを取り込み連続計算をするのが次のマクロです。

シートの追加、削除などをするとエラーが起こる可能性がここにあります。

{一部計算} ボタンへの登録マクロが下のマクロです。

'連続計算時の数値のチェック

Sub 転記計算 B() 作業の開始

Dim 始計算 As Integer

'計算する最初のシートの番号 セルI 7 (文字色を背景色にしています)

始計算 = Worksheets("MENU").Cells(7, 9).Value

Dim 終計算 As Integer

'計算する最後のシートの番号 セルK 7 (文字色を背景色にしています)

終計算 = Worksheets("MENU").Cells(7, 11).Value

' Range("d1") = 始計算

数値チェックのため作業中に利用したもの

' Range("d3") = 終計算

数値チェックのため作業中に利用したもの

はじまりの入力ミスのチェック

If 始計算 = 1 Then

'セルI 6 に数値が何も入力されていない場合

```

    MsgBox "範囲指定に誤りがあります。", vbCritical, "残念でした"
    Exit Sub
End If
おわりの入力ミスのチェック
If 終計算 = 1 Or 終計算 > 27 Then
    'セルK 6 に数値が何も入力されていない場合、オーバーの場合も
    MsgBox "範囲指定に誤りがあります。", vbCritical, "残念でした"
    Exit Sub
End If
はじめとおわりの比較
If 始計算 > 終計算 Then '最初の数値が少ないとだめよ！
    MsgBox "範囲指定に誤りがあります。", vbCritical, "残念でした"
    Exit Sub
End If
上の I F 関数をパスしてきたとき、始計算 は2 以上であり、かつ 終計算 より  
小さく、そして 終計算 は 27 以下の数値がセットされている
開始確認
If MsgBox(prompt:="連続計算をします。準備は OK ですか。", _ I f の開始
    Title:="もう一度確認", Buttons:=vbOKCancel) = vbOK Then
    F o r の開始
    For I = 始計算 To 終計算
        Worksheets(I).Activate 'シートナンバーが i のものを表示する(2 - 27)
        '1番が MENU、2番が a、27番が z、の想定
        Range("A1").Select 'カーソルをセルA 1に置きます(整理、整頓)
        転記計算 '償却費計算
        Range("A1").Select 'カーソルをセルA 1に置きます(整理、整頓)
        ActiveWindow.SmallScroll ToRight:=-9 '画面が見やすくなるように移動
    Next I
    F o r の終了
    Sheets("MENU").Select '最後は MENU を表示させる
    Range("A1").Select 'カーソルをセルA 1に置きます(整理、整頓)
    メッセージ表示
    MsgBox "計算終了。割増償却や除却、
        譲渡などの場合は手入力してください。", 0 + 48, "計算終了"
    End If I f の終了
End Sub 作業の終了

```

マクロ更新の説明です

年度更新は決算が終了したあと、次の年に備えるものです。実際には決算が始まる時期
に実行するでしょうね。

期末未残高残高を期首未償却残高の欄に転記し、不要なデータを消去するものです。'

実際の作業は残高更新ですが、その前の確認作業

Sub 年度更新() 作業の開始

確認作業

If MsgBox(prompt:="年度更新ですよ。更新日を確認してね。

期末残高を期首残高に転記します。もう後には戻れませんよ。 OK ですか。", _

Title:="もう一度よく確認", Buttons:=vbOKCancel) = vbOK Then

残高更新 残高更新のマクロへ移動

MsgBox "転記終了。償却費の計算はしていませんよ。

Q 列の残高を T 列に転記しただけですよ。", 0 + 48, "転記終了"

End If

カーソルを移動

' Application.Goto Reference:=Range("N1"), scroll:=True

' ActiveWindow.SmallScroll ToRight:=-10 'ウィンド枠固定後のためこれを追加

End Sub

実際の作業用のマクロ

Sub 残高更新() 作業の開始

セル J 2 にはデータの数値が入ります。0 ならばデータが無いので作業をしない。

If Range("J2") <> 0 Then

転記する元のデータを選択

Range("Q7:Q106").Select '期末残高欄を Q列です

Selection.Copy コピーをして

Range("T7").Select 転記先の先頭セルを選択し '期首残高欄へ T列です

Selection.PasteSpecial Paste:=xlValues, Operation:=xlNone, _

SkipBlanks:=False, Transpose:=False 値のみ貼り付け

Range("N1").Select

```

Application.CutCopyMode = False      コピーモードの解除
消去範囲の選択です      余裕を見て 200 行にしています
{ 計算 } ボタンで生成されるデータの消去です
Range("G7:H206,J7:J206,L7:N206,P7:P206,R7:R206,S7:S206,V7:V206").Select
'計算部分を消去する
Selection.ClearContents      '2009.1.25 追加      s 列 v 列      100 行増加は念のため
いつ作業をしたか記録をしておくためのもの
Range("Z3").Select          '転記した月日を記録する
ActiveCell.FormulaR1C1 = "=TODAY()"      Z 3 に関数を入力
Range("Z3").Select          Z 3 を選択し
Selection.Copy              Z 3 をコピーし
Range("Z3").Select      関数が数値に変わります      '貼り付けた式を固定します。
Selection.PasteSpecial Paste:=xlValues, Operation:=xlNone, _
    SkipBlanks:=False, Transpose:=False
Range("N1").Select
Application.CutCopyMode = False      コピーモード解除
月数をすべて 1 2 にする
Dim AA As Integer, J As Integer
AA = ActiveSheet.Cells(2, 10).Value      'J2 の数値をセット( データ件数 )
7 行目から上から順番に 1 2 を代入する。今は使っていない。
' For j = 7 To AA + 6          '償却期間を 1 2 にする
' Cells(j, 11) = "12"
' Next j
今はこちら。選択範囲を 1 2 にする
Range(Cells(7, 11), Cells(6 + AA, 11)) = "12"      'こちらに変更
カーソルを移動させて見やすくする
Application.Goto Reference:=Range("N1"), scroll:=True
ActiveWindow.SmallScroll ToRight:=-10      'ウィンド枠固定後のためこれを追加
End If      I F の終了
End Sub      S u b の終了

```

確認作業が何回もあります。もとは戻れないわけですから。

' 残高更新を一括に処理します。

Sub 全部年度更新() 作業の開始

I F の開始 1

If MsgBox(prompt:="期末残高を期首残高に転記する更新作業です。") = vbYes Then

```
他の人が実施していないか確認してください。", _  
Title:="更新確認", Buttons:=vbOKCancel) = vbOK Then
```

```
MsgBox "データを見て確認してくださいね。", 0 + 48, "確認"
```

```
I F の開始 2
```

```
If MsgBox(prompt:="くどいですが、もう一度確認します。
```

```
本当に作業続行でいいですか。", _
```

```
Title:="更新確認", Buttons:=vbOKCancel) = vbOK Then
```

```
2 番から 27 番まで順番に 残高更新 を実行する
```

```
Dim I As Integer
```

```
F o r の開始
```

```
For I = 2 To 27
```

```
Worksheets(I).Activate 'シートナンバーが i のものを表示する( 2 - 27 )
```

```
残高更新 '更新作業をします
```

```
Range("A1").Select
```

```
Next I
```

```
F o r の終了
```

```
MsgBox "作業が終了しました。"
```

```
End If
```

```
I F の終了 2
```

```
End If
```

```
I F の終了 1
```

```
Sheets("MENU").Select
```

```
Range("A1").Select
```

```
End Sub 作業の終了
```

マクロ印刷の説明です

表題のある印刷表を準備し、そこにデータを転記し、そのシートで罫線を引いたり、合計を記入する作業をしています。v 5 0 では印刷表 2 を設置。2 段書に対応しました。

'マクロ記録日 : 1999/2/25

```
Sub 印刷()      作業の開始
  確認作業
  If MsgBox(prompt:="プリンタの準備は OK ですか。", _
    Title:="プリンタ確認", Buttons:=vbOKCancel) = vbOK Then
    転記印刷      転記印刷のマクロへ移動します
  End If
End Sub
```

'マクロ記録日 : 1999/2/25 修正

```
' 2005/1/23 追加 Range("J2") <> 0 を下記に修正
'
'           Range ("J2") <> 0 And Range("J2") = Range("L2")
''
```

上の注釈はセル J 2 に数値があるだけで印刷していた方式を、更にその数値がセル L 2 の数値と同じ場合には印刷します と変更したときのメモです。

```
Sub 転記印刷()  作業の開始
  確認作業
  If Range("J2") <> 0 And Range("J2") = Range("L2") Then
    Dim zz As String      zz には表名がはいります
    zz = ActiveSheet.Cells(2, 24).Value  'X2 の文字をセット (表名)
    Application.ScreenUpdating = False  画面の動きを止める
    Sheets("印刷表").Visible = True      印刷表を表示させる
    Sheets("印刷表").Select              '計算表の従前のデータを消去する 1 0 0 0 行
    Range("a7:t1000").Select             消去したい範囲を選択するここにデータが来る
    Selection.ClearContents              内容を消去する
    Range("a1").Select                   カーソルを定位置に (整理、整頓)
    Sheets(zz).Select                    '現在のシートを選択する。
    Dim AA As Integer
    AA = ActiveSheet.Cells(2, 10).Value  'J2 の数値をセット (データ件数)
    BBa = "a7:" & "t" & AA + 6          '北°-範囲 : データ全部
    Range(BBa).Select
```

Selection.Copy
Range("A1").Select
データシートから印刷表のセルA7を先頭にした範囲に貼り付ける
Sheets("印刷表").Select '形式を選択して貼り付け 値のみ
Range("A7").Select
Selection.PasteSpecial Paste:=xlValues, Operation:=xlNone, _
SkipBlanks:=False, Transpose:=False
Application.CutCopyMode = False コピーモード解除
事業所名の転記 'シート名を印刷部分は一部変更
Sheets(zz).Select '現在のシートを選択する。
Range("N4").Select '事業所名の転記 旧は表名で X2
Selection.Copy
Range("A1").Select
Sheets("印刷表").Select '形式を選択して貼り付け 値のみ
Range("P3").Select
Selection.PasteSpecial Paste:=xlValues, Operation:=xlNone, _
SkipBlanks:=False, Transpose:=False
Application.CutCopyMode = False
住所の転記
Sheets(zz).Select '現在のシートを選択する。 2002/1/25 追加
Range("H4").Select '住所の転記
Selection.Copy
Range("A1").Select
Sheets("印刷表").Select '形式を選択して貼り付け 値のみ
Range("J3").Select
Selection.PasteSpecial Paste:=xlValues, Operation:=xlNone, _
SkipBlanks:=False, Transpose:=False
Application.CutCopyMode = False
納税者番号の転記
Sheets(zz).Select '現在のシートを選択する。 2002/1/25 追加
Range("P4").Select '納税者番号
Selection.Copy
Range("A1").Select
Sheets("印刷表").Select '形式を選択して貼り付け 値のみ
Range("P1").Select ' (2.1変更 R3 から P1 へ)
Selection.PasteSpecial Paste:=xlValues, Operation:=xlNone, _

SkipBlanks:=False, Transpose:=False

Application.CutCopyMode = False

ここからは転記されたデータの表示方法を指定して行く

マクロの自動記録で作成するので細かい内容は良く知らない

D列E列を選択する

Columns("D:E").Select '2009.1.25 追加

選択された範囲のフォントのサイズを8とする

With Selection.Font

.Size = 8

End With

H列を選択する

Columns("H:H").Select '2009.1.25 追加

選択された範囲のフォントのサイズを8とし、位置を真ん中にする

With Selection

.Font.Size = 8

.HorizontalAlignment = xlCenter

End With

次は転記されたデータの項目別の合計を算出し、です。

このマクロの細かい内容は良くわからない。マクロの自動記録で作ります。

カーソルをC7に置きます

Range("C7").Select 'データ集計

ツール データ 集計 ダイアログボックスが出てくるので、集計したい基準を資産種類集計の方法を合計、集計するフィールドの部分をチェックし、集計行をデータの下に挿入する、この自動記録が下の部分です。意味はなんとなくわかりますね。(*^_^*)

Selection.Subtotal GroupBy:=2, Function:=xlSum, TotalList:=Array(_
14, 16, 17, 20), Replace:=False, PageBreaks:=False, SummaryBelowData _
:=True

罫線 罫線を引くマクロへ

小計 小計という文字を書くマクロへ '2000/5 追加分

表の体裁を整える作業が続きます

Range("C7:C206").Select '2000/5 縮小して全体を表示

縮小して全体を表示

With Selection

.HorizontalAlignment = xlGeneral

.VerticalAlignment = xlBottom

```

.WrapText = False
.Orientation = 0
.AddIndent = False
.ShrinkToFit = True
.MergeCells = False
End With
Cells.Select          シート全体を選択し、
Selection.Style = "桁区切り"  セルの表示形式を桁区切りに指定する
Range("A1").Select
  Columns("E:E").Select  E列を選択し
Selection.NumberFormat = ""  書式を何も指定しない
  Columns("J:J").Select  J列を選択し
Selection.NumberFormat = "0.000"  小数点以下第3位まで表示する指定
Range("A1").Select
  Columns("A:B").Select  A列B列を選択して、非表示にする
Selection.EntireColumn.Hidden = True
Range("P1").Select    '2002/1/25 追加 (2.1変更 R3 から P1 へ)
Selection.NumberFormatLocal = "00000000"  納税者番号を8桁で表示するため
  次は印刷をする命令です
ActiveWindow.SelectedSheets.PrintOut Copies:=1  '1部を印刷します
集計解除  集計解除のマクロへ
Sheets("印刷表").Visible = False  印刷表を非表示にする
Sheets(zz).Select  作業をさせたシートに戻る
Range("A1").Select  カーソルを定位置へ(整理、整頓)
Application.ScreenUpdating = True  画面の動きを見せる
End If
  Range("A1").Select
End Sub  作業終了

```

無駄と思われる部分があり、今では思います。今では、もっと、スッキリと分かりやすく書けるとおもいますね。(*^_^*)

実際の作業状態を小さく区切り、マクロの自動記録により生成したマクロを修正して作ります。

画面を印刷したあと、元の画面に戻す作業です

```
Sub 集計解除()  作業の開始
```

下の 2 行はセル C 7 にカーソルを置いて印刷が終わった画面

Range("C7").Select '集計解除

Selection.RemoveSubtotal

ここから 5 行は、非表示にしている、A 列 B 列を表示させるマクロです。詳しく見たのは今回が初めてです。実際の作業分は中の 3 行で、その前後にカーソルの移動分の記録が残っているようですね。2 行分削ることも可能かもしれない。

通常、非表示にしている列や行を表示するためには、隠れている行や列をまたぐようにして範囲を選択しますが、A 列や 1 行目は Cells.Select が先頭になるということですね。

Range("C1").Select

Cells.Select 'A と B の列を表示させる

Range("C1").Activate

Selection.EntireColumn.Hidden = False

Range("A1").Select

Range("a7:t1000").Select '範囲のデータをすべてクリア

Selection.Clear 'セルにいろいろ設定したもので消えるすべてクリア

Range("J3").Select '住所のクリア

Selection.Clear

Range("P3").Select '表名のクリア

Selection.Clear

Range("P1").Select '納税者番号のクリア (2.1 変更 R3 から P1 へ)

Selection.Clear

Range("A1").Select 'カーソルを定位置へ (整理、整頓)

End Sub

'ここもマクロの自動記録で作成

'小計計算後罫線をひきます

'データのある部分に線を引く

Sub 罫線()

Range("P5").Select 'P 列には小計合計金額があり、最大行数になる。

Selection.End(xlDown).Select 'P 5 からデータのある最後の位置まで移動

CTRL キーを押して下向き矢印を押した時の記録です

CC = Selection.Row 'カーソルのある行番号を CC に代入する

セル C 7 からデータのある最後の行の R 列までを選択する

Range(Cells(7, 3), Cells(CC, 18)).Select 'データのある範囲を選択している

昇目を引く作業のボタンを押すと記録は次のようになるみたいです

With Selection.Borders(xlLeft) '左側の線を引く

```

        .Weight = xlThin
        .ColorIndex = xlAutomatic
    End With
    With Selection.Borders(xlRight)
        .Weight = xlThin
        .ColorIndex = xlAutomatic
    End With
    With Selection.Borders(xlTop)
        .Weight = xlThin
        .ColorIndex = xlAutomatic
    End With
    With Selection.Borders(xlBottom)
        .Weight = xlThin
        .ColorIndex = xlAutomatic
    End With
    罫線引き終了
    Range("C" & CC).Select
    ActiveCell.FormulaR1C1 = "総合計"
    ' Selection.BorderAround Weight:=xlThin, ColorIndex:=xlAutomatic
End Sub

```

'マクロ記録日 : 1999/2/25

'プレビューからの印刷

Sub 印刷プレ()

確認作業

```

    If MsgBox(prompt:="プリンタの準備は OK ですか。", _
        Title:="プリンタ確認", Buttons:=vbOKCancel) = vbOK Then
        転記印刷プレ
    
```

End If

End Sub

'

'マクロ記録日 : 1999/2/11

' 2005/1/23 追加 Range("J2") <> 0 を下記に修正

```

' Range ("J2") <> 0 And Range("J2") = Range("L2")

```

'転記印刷とまるっきり同じもの 途中の一行だけ違う

Sub 転記印刷プレ()

```

If Range("J2") <> 0 And Range("J2") = Range("L2") Then
    Dim zz As String
    zz = ActiveSheet.Cells(2, 24).Value    'X2 の文字をセット (表名)
    Application.ScreenUpdating = False
    Sheets("印刷表").Visible = True
    Sheets("印刷表").Select                '計算表の従前のデータを消去する 1 0 0 0 行
    Range("a7:t1000").Select
    Selection.ClearContents
    Range("a1").Select
    Sheets(zz).Select                      '現在のシートを選択する。
    Dim AA As Integer
    AA = ActiveSheet.Cells(2, 10).Value    'J2 の数値をセット (データ件数)
    BBa = "a7:" & "t" & AA + 6            '北°-範囲：データ全部
    Range(BBa).Select
    Selection.Copy
    Range("A1").Select
    Sheets("印刷表").Select                '形式を選択して貼り付け    値のみ
    Range("A7").Select
    Selection.PasteSpecial Paste:=xlValues, Operation:=xlNone, _
        SkipBlanks:=False, Transpose:=False
    Application.CutCopyMode = False
        'シート名を印刷部分は一部変更
    Sheets(zz).Select                      '現在のシートを選択する。
    Range("N4").Select                    '事業所名の転記    旧は表名 X2
    Selection.Copy
    Range("A1").Select
    Sheets("印刷表").Select                '形式を選択して貼り付け    値のみ
    Range("P3").Select
    Selection.PasteSpecial Paste:=xlValues, Operation:=xlNone, _
        SkipBlanks:=False, Transpose:=False
    Application.CutCopyMode = False
    Sheets(zz).Select                      '現在のシートを選択する。 2002/1/25 追加
    Range("H4").Select                    '住所の転記
    Selection.Copy
    Range("A1").Select

```

Sheets("印刷表").Select '形式を選択して貼り付け 値のみ
 Range("J3").Select
 Selection.PasteSpecial Paste:=xlValues, Operation:=xlNone, _
 SkipBlanks:=False, Transpose:=False
 Application.CutCopyMode = False
 Sheets(zz).Select '現在のシートを選択する。 2002/1/25 追加
 Range("P4").Select '納税者番号
 Selection.Copy
 Range("A1").Select
 Sheets("印刷表").Select '形式を選択して貼り付け値のみ(2.1 変更 R3 から P1 へ)
 Range("P1").Select
 Selection.PasteSpecial Paste:=xlValues, Operation:=xlNone, _
 SkipBlanks:=False, Transpose:=False
 Application.CutCopyMode = False
 Columns("D:E").Select '2009.1.25 追加
 With Selection.Font
 .Size = 8
 End With
 Columns("H:H").Select '2009.1.25 追加
 With Selection
 .Font.Size = 8
 .HorizontalAlignment = xlCenter
 End With
 Range("C7").Select 'データ集計
 Selection.Subtotal GroupBy:=2, Function:=xlSum, TotalList:=Array(_
 14, 16, 17, 20), Replace:=False, PageBreaks:=False, SummaryBelowData _
 :=True
 罫線
 小計 '2000/5 追加分
 Range("C7:C206").Select '2000/5 縮小して全体を表示
 With Selection
 .HorizontalAlignment = xlGeneral
 .VerticalAlignment = xlBottom
 .WrapText = False
 .Orientation = 0
 .AddIndent = False

```

        .ShrinkToFit = True
        .MergeCells = False
    End With
    Cells.Select
    Selection.Style = "桁区切り"
    Range("A1").Select
    Columns("E:E").Select
    Selection.NumberFormat = ""
    Columns("J:J").Select
    Selection.NumberFormat = "0.000"
    Range("A1").Select
    Columns("A:B").Select
    Selection.EntireColumn.Hidden = True
    Range("P1").Select    '2002/1/25 追加 (2.1 変更 R3 から P1 へ)
    Selection.NumberFormatLocal = "00000000"
    ActiveSheet.PrintPreview    '印刷プレビューをするここだけ
    集計解除
    Sheets("印刷表").Visible = False
    Sheets(zz).Select
    Range("A1").Select
    Application.ScreenUpdating = True
End If
    Range("A1").Select
End Sub
'
' マカ記録日 : 1999/2/25
' 範囲指定して連続印刷をする
Sub 転記印刷連続()
    Dim 始印刷 As Integer    '変数の宣言
        '印刷する最初のシートの番号 セルI 1 1 (文字色を背景色にしています)
    始印刷 = Worksheets("MENU").Cells(11, 9).Value    '変数にセルI 1 1の値代入
    Dim 終印刷 As Integer    '変数の宣言
        '印刷する最後のシートの番号 セルK 1 1 (文字色を背景色にしています)
    終印刷 = Worksheets("MENU").Cells(11, 11).Value    '変数にセルK 1 1の値代入
    今は注釈になっていますが、プログラム作成時にはこれらで変数の確認をしながら
    作業を行います

```

```
' Range("d1") = 始印刷          数値チェックのため作業中に利用したもの
' Range("d3") = 終印刷          数値チェックのため作業中に利用したもの
```

最初のチェックはスタートの数値です

```
If 始印刷 = 1 Then          'セルI 1 0 に数値が何も入力されていない場合
    MsgBox "範囲指定に誤りがあります。", vbCritical, "残念でした"
    Exit Sub
End If
```

次はエンドの数値です

```
If 終印刷 = 1 Or 終印刷 > 27 Then
    'セルK 1 0 に数値が何も入力されていない場合、オーバーの場合も
    MsgBox "範囲指定に誤りがあります。", vbCritical, "残念でした"
    Exit Sub
End If
```

上の二つを潜りぬけるとさらに追加のチェックです

```
If 始印刷 > 終印刷 Then          '最初の数値が少ないとだめよ！
    MsgBox "範囲指定に誤りがあります。", vbCritical, "残念でした"
    Exit Sub
End If
```

ここまででくれば、印刷できる範囲の数値が設定されている。さらに確認作業です。

```
If MsgBox(prompt:="連続印刷をします。紙や電源等の準備は OK ですか。", _
    Title:="プリンタをもう一度確認", Buttons:=vbOKCancel) = vbOK Then
```

繰り返し開始

```
For I = 始印刷 To 終印刷
    Worksheets(I).Activate 'シートナンバーが i のものを表示する(2 - 27)
    Range("A1").Select
    転記印刷  転記印刷のマクロへ '印刷します。確認もプレビューもありません。
    Range("A1").Select
Next I
```

繰り返し終了

```
Sheets("MENU").Select          '最後は MENU を表示させる
    Range("A1").Select
    MsgBox "印刷終了。印刷がすべてが終るまでお待ちください。"
End If
End Sub
```

メニューバーに命令が組み込んであります。組み込んだのはエクセル95の時代で、今ど

ここにあるかはわからない。でも、実行されるマクロは次のものです。

'カーソルがある行を削除する。データシートにおける削除

'マクロ記録日：1999/5/20 ユーザー名：小林誠一郎

'Sub 一行削除()

Dim R1 As Integer

Dim C1 As Integer

Dim Sn As String シートの名前用です

R1 = ActiveCell.Row '現在のセルの位置の行番号

C1 = ActiveCell.Column '現在のセルの位置の列番号

Sn = ActiveSheet.Name '現在のシート名前です

' MsgBox R1 'テスト中の確認作業に使用

' MsgBox R1 & ":" & R1 'テスト中の確認作業に使用

すべてのシートの名前に対応しているわけではないですね。

If R1 < 8 Or Sn = "MENU" Then

MsgBox "この行は削除できません", 0 + 48, "確認"

Else

ans = MsgBox("本当に削除していいですか?", 3 + 32, "削除の確認")

If ans = vbYes Then

Rows(R1 & ":" & R1).Select '行の選択

Selection.Delete Shift:=xlUp '行を削除した後上に詰めているのだな

Cells(R1, 1).Select 'カーソルをA列に設置

ElseIf ans = vbNo Then

End If

End If

End Sub

'MENU"シート以外であれば、このマクロは働くこととなりますね

'カーソルがある行に挿入する。

挿入したあとA列とB列には上と同じ数値をいれる作業をしている

Sub 一行挿入()

Dim R1 As Integer

Dim C1 As Integer

Dim Sn As String

R1 = ActiveCell.Row '現在のセルの位置の行番号

C1 = ActiveCell.Column '現在のセルの位置の列番号

Sn = ActiveSheet.Name '現在のシートの名前

```

If R1 < 8 Or Sn = "MENU" Then
  MsgBox "この行には挿入できません", 0 + 48, "確認"
Else
  ' MsgBox R1
  ' MsgBox R1 & ":" & R1
  Rows(R1 & ":" & R1).Select      '行の選択
  Selection.Insert Shift:=xlDown  '行を挿入
  Cells(R1 - 1, 1).Select        A列の作業
  Selection.Copy
  Cells(R1, 1).Select
  Selection.PasteSpecial Paste:=xlValues, Operation:=xlNone, _
    SkipBlanks:=False, Transpose:=False
  Application.CutCopyMode = False  'コピーモード解除
  Cells(R1 - 1, 2).Select        B列の作業
  Selection.Copy
  Cells(R1, 2).Select
  Selection.PasteSpecial Paste:=xlValues, Operation:=xlNone, _
    SkipBlanks:=False, Transpose:=False
  Application.CutCopyMode = False  'コピーモード解除
  Cells(R1, 1).Select
End If
End Sub

```

罫線マクロが終わったら、このマクロに来る設定。罫線マクロが終わった瞬間には、カーソルは総合計を表示している場所にあります。このマクロの最初の Selection はその場所を指すことになります。

```

Sub 小計()
  ' 小計を表示させるために追加
  ' マクロ記録日 : 2000/5/16   ヲザ' -名 : 小林誠一郎
  With Selection
    .HorizontalAlignment = xlRight      '総合計の表示を右詰めにする
  End With
  '標準では左詰めだ
  '変数の宣言
  Dim I As Integer
  Dim LL As Integer, MM As Integer, NN As Integer

```

シート編にシートに設定してある式の説明をしておきましたが、抜けていました。「印刷

表」シートのセルG 1には =COUNTA(C:C)+3 を設定しています。

C列の文字データをカウントし、その数に3をプラスします。この列には6行目までに、3個の文字データがあります。これでセルG 1にはC列のデータのある行数が入ります。

LL = ActiveSheet.Cells(1, 7).Value 'G1の数値をセット(C列のデータ数)

MM = ActiveCell.Row

NN = MM - LL

' MsgBox NN 作業途中の確認用に使用したもの

MM は 最終行のセルの行数、LL はG 1の数値(データのある行数)

従って、NN は C列のデータのある部分の中の空白セルの数になります。

If NN = 1 Then

空白が一つならば、ひとつ上だけが空いています

ActiveCell.Offset(-1, 0).Activate '総合計の一行上の行に移動

ActiveCell.FormulaR1C1 = "="小計"" '小計を表示

With Selection

.HorizontalAlignment = xlRight '右詰めにする

End With

End If

そうでない場合は

If NN >= 2 Then

ActiveCell.Offset(-1, 0).Activate '総合計の一行上の行に移動

ActiveCell.FormulaR1C1 = "="小計"" '小計を表示

With Selection

.HorizontalAlignment = xlRight '右詰めにする

End With

繰り返し作業開始

For I = 1 To NN - 1

CTRLキーを押しながら上向き矢印を押すとデータのあるセルに来ます
そのひとつ上が空白セルです。

Selection.End(xlUp).Select

ActiveCell.Offset(-1, 0).Activate 空白セルに来ました

ActiveCell.FormulaR1C1 = "="小計"" そこに小計を代入します

With Selection

位置を右詰にします

.HorizontalAlignment = xlRight

End With

Next I

空白が無くなるまで繰り返す

End If

繰り返し作業終了

End Sub 作業終了

マクロ印刷 2 の説明

'マクロ記録日 : 2009/1/28

'定率法の場合の印刷

Sub 印刷 2()

確認作業

```
If MsgBox(prompt:="プリンタの準備は OK ですか。", _  
Title:="プリンタ確認", Buttons:=vbOKCancel) = vbOK Then
```

```
  転記印刷 2      転記印刷 2 のマクロへ
```

```
End If
```

```
End Sub
```

'マクロ記録日 : 2009/1/28

'プレビュー印刷

Sub 印刷プレ 2()

```
If MsgBox(prompt:="プリンタの準備は OK ですか。", _  
Title:="プリンタ確認", Buttons:=vbOKCancel) = vbOK Then
```

```
  転記印刷プレ 2      転記印刷プレ 2 のマクロへ
```

```
End If
```

```
End Sub
```

前に出た転記印刷のマクロを変形したもの

'実際の作業マクロ

Sub 転記印刷 2()

' マクロ記録日 : 2009/1/28 ユーザー名 : kobayan

確認作業

```
If Range("J2") <> 0 And Range("J2") = Range("L2") Then
```

```
  Dim zz As String
```

```
  zz = ActiveSheet.Cells(2, 24).Value   'X2 の文字をセット (表名)
```

```
  Application.ScreenUpdating = False
```

```
  Sheets("印刷表 2").Visible = True     'シートの再表示
```

```
  Sheets("data").Visible = True
```

```
  Sheets(zz).Select                     '現在のシートを選択する。
```

```

Range("C1:V206").Select           C から V までのデータをコピー
Selection.Copy                     範囲が C 列から V 列までになっていますね
Sheets("data").Select             '形式を選択して貼り付け 値のみ
Range("C1").Select
Selection.PasteSpecial Paste:=xlPasteValues, Operation:=xlNone, SkipBlanks _
:=False, Transpose:=False

```

```

Sheets("印刷表 2").Select         印刷するシートを選択します

```

```

Range("C2").Select
Application.CutCopyMode = False

```

ここでもシート編の説明が抜けていますね。A 列 B 列は非表示にしています。

A 列の数字はメモです。C 列には印刷用に仕掛けがあります。data シートにあるデータが表示されますが、セル C 8 には =IF(C7<>"",1,"") の式があります。一行置にこの式がありますが、上の行にデータが表示された時には 1 を表示させて、オートフィルタでデータのある行のみを抽出して、その分を印刷する仕組みです。

```

Range("C6").Select                 'オートフィルタを設定

```

```

Selection.AutoFilter

```

```

Selection.AutoFilter Field:=3, Criteria1:="<>" 'データがある分を印刷

```

```

ActiveWindow.SelectedSheets.PrintOut Copies:=1 '1部を印刷します

```

印刷終了後

```

Range("C8").Select                 'オートフィルタを解除

```

```

Selection.AutoFilter

```

```

Range("C1").Select

```

```

Sheets("data").Select             '転記用シートのデータ消去

```

```

Cells.Select                       シートの全部の内容をクリア

```

```

Selection.ClearContents

```

```

Range("C1").Select

```

```

Sheets("印刷表 2").Visible = False 'シートの非表示

```

```

Sheets("data").Visible = False    'シートの非表示

```

```

Sheets(zz).Select

```

```

Range("A1").Select

```

```

Application.ScreenUpdating = True

```

```

End If

```

```

Range("A1").Select

```

```

End Sub

```

```

Sub 転記印刷プレ 2()

```

プレビュー印刷 一部の変更があるだけ

' Macro1 Macro

' マクロ記録日 : 2009/1/28 ユーザー名 : kobayan

```
If Range("J2") <> 0 And Range("J2") = Range("L2") Then
    Dim zz As String
    zz = ActiveSheet.Cells(2, 24).Value 'X2 の文字をセット (表名)
    Application.ScreenUpdating = False
    Sheets("印刷表 2").Visible = True 'シートの再表示
    Sheets("data").Visible = True
    Sheets(zz).Select '現在のシートを選択する。
    Range("C1:V206").Select 'C から V までのデータをコピー
    Selection.Copy
    Sheets("data").Select '形式を選択して貼り付け 値のみ
    Range("C1").Select
    Selection.PasteSpecial Paste:=xlPasteValues, Operation:=xlNone, SkipBlanks _
        :=False, Transpose:=False
    Sheets("印刷表 2").Select
    Range("C2").Select
    Application.CutCopyMode = False
    Range("C6").Select 'オートフィルタを設定
    Selection.AutoFilter
    Selection.AutoFilter Field:=3, Criteria1:="<>" 'データがある分を印刷
    ActiveWindow.SelectedSheets.PrintPreview 'プリントプレビュー
    Range("C8").Select 'オートフィルタを解除
    Selection.AutoFilter
    Range("C1").Select
    Sheets("data").Select '転記用シートのデータ消去
    Cells.Select
    Selection.ClearContents
    Range("C1").Select
    Sheets("印刷表 2").Visible = False 'シートの非表示
    Sheets("data").Visible = False 'シートの非表示
    Sheets(zz).Select
    Range("A1").Select
    Application.ScreenUpdating = True
```

```
End If
    Range("A1").Select
End Sub
```

マクロ連続の説明です

'表から表へ移動するときのマクロです

```
Sub g 説明表へ()  
    Sheets("説明表").Select  
    Range("A1").Select  
End Sub
```

"

```
Sub g 説明書へ()  
    Sheets("説明書").Select  
    Range("A1").Select  
End Sub
```

'

```
Sub gMENU へ()  
    Sheets("MENU").Select  
    Range("A1").Select  
End Sub
```

'

'選択したセルの各事業所の表へ移動する

MENU画面から各シートへ移動するときのものです

```
Sub g 事業所へ()  
    変数の宣言  
    Dim 目標行 As Integer  
    Dim 目標列 As Integer  
    ボタンが押された時に、カーソルがある位置を確認します  
    目標行 = ActiveCell.Row           'カーソルがあるセルの行番号  
    目標列 = ActiveCell.Column        'カーソルがあるセルの列番号  
    その数値が想定範囲にあるかチェックします。  
    If 目標列 <> 4 And 目標列 <> 7 Then      'G列 D列 以外では作業終了  
        MsgBox "指定場所が違います。", 0 + 16, "確認"  
        Exit Sub  
    End If  
    If 目標行 < 5 Or 目標行 > 17 Then      '5行目から17行目以内でないとは作業終了  
        MsgBox "指定場所が違います。", 0 + 16, "確認"  
        Exit Sub  
    End If
```

ここへ来た時には (目標行、目標列) の組み合わせは

(5、 4)(6、 4)(7、 4)(8、 4)(9、 4)(10、 4)(11、 4)(12、 4)(13、 4)(14、 4)(15、 4)(16、 4)(17、 4)

(5、 5)(6、 5)(7、 5)(8、 5)(9、 5)(10、 5)(11、 5)(12、 5)(13、 5)(14、 5)(15、 5)(16、 5)(17、 5)

If 目標列 = 4 Then 'D列の場合の処理

目標行 = 目標行 - 3

End If

If 目標列 = 7 Then 'G列の場合の処理

目標行 = 目標行 + 10

End If

データのシートは 2 から 27 まで

Worksheets(目標行).Activate 'シートナンバーが目標行のものを表示する (2 - 27)

Range("A1").Select

End Sub

' マカ記録日 : 1999/2/25

全事業所を一括に計算する

Sub 全部計算()

If MsgBox(prompt:=" 26 事業所分の連続計算をします。準備は OK ですか。", _
Title:="もう一度確認", Buttons:=vbOKCancel) = vbOK Then

' ScreenUpdating = False 画面の動きを止める

Dim I As Integer

For I = 2 To 27

Worksheets(I).Activate 'シートナンバーが i のものを表示する (2 - 27)

Range("A1").Select

If Range("J2") <> 0 Then

転記計算 '償却費計算

Range("A1").Select

ActiveWindow.SmallScroll ToRight:=9 画面をみやすいように移動するため

End If

Next I

' ScreenUpdating = True

Sheets("MENU").Select '最後は MENU を表示させる

Range("A1").Select

MsgBox "計算終了。割増償却や除却、

譲渡などの場合は手入力してください。", 0 + 48, "計算終了"

End If

End Sub

'

'全事業所を一括に印刷する

'マカ記録日 : 1999/2/25

'

Sub 全部印刷()

If MsgBox(prompt:=" 2 6 事業所分の連続印刷をします。

本気ですか。考え直してください。実行しますか。", _

Title:="プリンタをもう一度確認", Buttons:=vbOKCancel) = vbOK Then

' ScreenUpdating = False

Dim I As Integer

For I = 2 To 27

Worksheets(I).Activate 'シートナンバーが i のものを表示する (2 - 27)

Range("A1").Select

If Range("J2") <> 0 Then

 転記印刷

 '印刷指定です

 Range("A1").Select

End If

Next I

' ScreenUpdating = True

Sheets("MENU").Select

'最後は MENU を表示させる

Range("A1").Select

MsgBox "印刷終了。印刷がすべてが終るまでお待ちください。", 0 + 48, "終了"

End If

End Sub

マクロ転記の説明です

ニフティエクセルフォーラム編集 お宝ヘルプから引用

'【概要】 JS_OT04037

'ワークシート名でソートする方法

'【質問】

' シートの並び順を名前でソートするにはどうすればよいのでしょうか？

'【回答】

'-- 会議室発言からの引用(1) -----

' nifty:SMSOFFC/MES/08/02161 (96/08/09 21:24) HAH00026 t.tanaka さん

' 以下は Sheet 名でソートするサンプルです。

Sub 並べ替え()

Dim I As Integer, J As Integer, cnt As Integer

Dim buf() As String, swap As String

cnt = Application.Worksheets.Count

ReDim buf(cnt)

For I = 1 To cnt

buf(I) = Worksheets(I).Name

Next I

For I = 1 To cnt

For J = cnt To I Step -1

If buf(I) > buf(J) Then

swap = buf(I)

buf(I) = buf(J)

buf(J) = swap

End If

Next J

Next I

Application.ScreenUpdating = False

Worksheets(buf(1)).Move Before:=Worksheets(1)

For I = 2 To cnt

Worksheets(buf(I)).Move after:=Worksheets(I - 1)

Next I

Sheets("MENU").Select

'最後は MENU を表示させる

End Sub

'【概要】 JS_OT04043

'ワークシート一覧を作成する方法

'【質問】

'ブック内のシート一覧を作成するにはどのようにすればよいのでしょうか？

' [ファイル]-[プロパティ]-[ファイルの構成]の情報をコピー＆ペーストできる
'状態に取り出したいのですが。

'【回答】

'-- 会議室発言からの引用(1) -----

' nifty:FMSOFFC/MES/11/04051 (97/03/04 01:42) QZC03632 小出 哲也 さん

'下記のようなマクロを使えば、セルにシート名を書き込むことができます。

'試しにやってみてください。

'次のプロシージャは、シートの枚数、名前を取得してA 1からその下の

'セルにシート名を書き込むプログラムです。任意のワークシート上から

'実行してください。

Sub シート名取得()

 For x = 1 To Worksheets.Count

 Cells(x, 1).Value = Sheets(x).Name

 Next x

End Sub

お宝からの引用終了

'以上のデータやかつ君さんの減価償却データ転記マクロを参考にさせていただきました。

'このファイルは最初に元データファイルを開き、これが 2 番目に開かれる想定で実行して
います。

バージョンアップ用に準備したものです

'前からの分。もう必要がなくなるかもね。2000/5 .

Sub シートデータ転記()

 If MsgBox(prompt:="旧バージョン分(1.3*以前) の

 データをこのファイルに取り込みます。", _

 Title:="準備確認", Buttons:=vbOKCancel) = vbOK Then

 MsgBox "説明書はよく読みましたね。

 順番に実行しないと良い結果は得られません。"

 If MsgBox(prompt:="くどいですが、

```

        もう一度確認します。本当に準備はちゃんとしましたね。", _
        Title:="もう一度中止して確認してください。",
        Buttons:=vbOKCancel) = vbOK Then
Sheets("転記").Activate          '表示しなくても仕事はできる
Dim m As Integer, x As Integer
m = Workbooks(1).Worksheets.Count
    ' 1番目に開いたファイルのシートの枚数をセットする
For x = 1 To m                    'シートの名称を取り込む
    Cells(x, 3).Value = Workbooks(1).Worksheets(x).Name    'C列に格納
Next x
'個別事業所のデータを新ファイルに転記する
For x = 1 To m
    Workbooks(1).Activate        '1番目に開いたファイルをアクティブにする
    Worksheets(x).Activate        'シートナンバーが x のものを表示する(1-26)
    Range("A7:T106").Select       'データは100件までが限度です
    Selection.Copy
                                '新ファイルは1番目を MENU にしている
    Workbooks(2).Activate        '2番目に開いたファイルをアクティブにする
    Worksheets(x + 1).Activate    'シートナンバーが x+1 のものを表示する(2-27)
    Range("A7").Select            '形式を選択して貼り付け 値のみ
    Selection.PasteSpecial Paste:=xlValues, Operation:=xlNone, _
        SkipBlanks:=False, Transpose:=False
    Range("A1").Select            'カーソルを定位置に

    Workbooks(1).Activate        '1番目に開いたファイルをアクティブにする
    Worksheets(x).Activate        'シートナンバーが x のものを表示する(1-26)
    Range("A1").Select            'カーソルを定位置に
    Application.CutCopyMode = False 'コピーモードを解除する
Next x
'事業所名を MENU に登録します。
    Workbooks(2).Activate        '2番目に開いたファイルをアクティブにする
    Sheets("転記").Activate        '表示させなくても仕事はできる
    Range("C1:C13").Select         '13件分
    Selection.Copy
    Sheets("MENU").Select          '名称を登録する
    Range("D5").Select

```

```

Selection.PasteSpecial Paste:=xlValues, Operation:=xlNone, _
    SkipBlanks:=False, Transpose:=False
Range("A1").Select
Sheets("転記").Activate          '表示させなくても仕事はできる
Application.CutCopyMode = False
Range("C14:C26").Select          '13 件分
Selection.Copy
Sheets("MENU").Select            '名称を登録する
Range("G5").Select
Selection.PasteSpecial Paste:=xlValues, Operation:=xlNone, _
    SkipBlanks:=False, Transpose:=False
Range("A1").Select
Sheets("転記").Activate
Range("A1").Select
Application.CutCopyMode = False
Sheets("MENU").Select
Range("A1").Select
MsgBox "作業が終了しました。
        ファイルの保存はしていませんので確認の上保存してください。"
End If
End If

```

End Sub

'-----

マクロをたくさん公開していた方の見本の中からいただいた物です。

名前は失念しています。(; ー_ー)

'これはおまけです。

作ってありますが、このボタンを押した方がいるのかなあ。

Sub うらない()

Dim I As Integer, J As Integer

Dim 占い(5) As String

Dim 色 As Integer

占い(1) = "大吉"

占い(2) = "中吉"

占い(3) = "小吉"

占い(4) = "吉"

占い(5) = "残念"

```

I = Int(5 * Rnd) + 1
J = Int(40 * Rnd) + 2
' Cells(1, 4).Value = i
' Cells(1, 5).Value = j
ActiveSheet.Unprotect
ActiveSheet.TextBoxes.Add(10, 6, 40, 20).Select
With Selection
    .HorizontalAlignment = xlCenter
    .VerticalAlignment = xlCenter
    .Characters.Text = 占い(I)
    .Interior.ColorIndex = J
    .Shadow = True
    .RoundedCorners = True
End With
Application.Wait Now + TimeValue("00:00:02")
ActiveSheet.TextBoxes(1).Select
Selection.Delete
ActiveSheet.Protect
End Sub

```

バージョンアップ用 シートデータ転記 その2

'以上のデータやかつ君さんの減価償却データ転記マクロを参考にさせていただきました。
'このファイルは最初に元データファイルを開き、これが 2 番目にかかれる想定で実行して
います。

'V1.8 から追加した分です。

'

Sub シートデータ転記 2()

 If MsgBox(prompt:="旧バージョン分(1.4*から 1.8*まで) の

 データをこのファイルに取り込みます。", _

 Title:="準備確認", Buttons:=vbOKCancel) = vbOK Then

 MsgBox "説明書はよく読みましたね。

 順番に実行しないと良い結果は得られません。"

 If MsgBox(prompt:="くどいですが、

 もう一度確認します。本当に準備はちゃんとしましたね。", _

 Title:="もう一度中止して確認してください。",

 Buttons:=vbOKCancel) = vbOK Then

Dim x As Integer

'個別事業所のデータを新ファイルに転記する

For x = 2 To 27

Workbooks(1).Activate '1番目に開いたファイルをアクティブにする
Worksheets(x).Activate 'シートナンバーが x のものを表示する(2-27)
Range("A7:T106").Select 'データは100件までが限度です
Selection.Copy

 '新ファイルは1番目を MENU にしている

Workbooks(2).Activate '2番目に開いたファイルをアクティブにする
Worksheets(x).Activate 'シートナンバーが x のものを表示する(2-27)
Range("A7").Select '形式を選択して貼り付け 値のみ
Selection.PasteSpecial Paste:=xlValues, Operation:=xlNone, _
 SkipBlanks:=False, Transpose:=False

Range("A1").Select 'カーソルを定位置に

Workbooks(1).Activate '1番目に開いたファイルをアクティブにする
Worksheets(x).Activate 'シートナンバーが x のものを表示する(2-27)
Range("A1").Select 'カーソルを定位置に
Application.CutCopyMode = False 'コピーモードを解除する

Next x

'事業所名を MENU に登録します。

Workbooks(1).Activate '1番目に開いたファイルをアクティブにする
Worksheets(1).Activate '表示させなくても仕事はできる
Range("D5:D17").Select '13件分
Selection.Copy

Workbooks(2).Activate '2番目に開いたファイルをアクティブにする
Worksheets(1).Activate '表示させなくても仕事はできる
' Sheets("MENU").Select '名称を登録する

Range("D5").Select
Selection.PasteSpecial Paste:=xlValues, Operation:=xlNone, _
 SkipBlanks:=False, Transpose:=False

Range("A1").Select

Workbooks(1).Activate '1番目に開いたファイルをアクティブにする
Worksheets(1).Activate '表示させなくても仕事はできる
Application.CutCopyMode = False
Range("G5:G17").Select '13件分
Selection.Copy

```

Workbooks(2).Activate      '2番目に開いたファイルをアクティブにする
Worksheets(1).Activate    '表示させなくても仕事はできる
'Sheets("MENU").Select    '名称を登録する
Range("G5").Select
Selection.PasteSpecial Paste:=xlValues, Operation:=xlNone, _
    SkipBlanks:=False, Transpose:=False
Range("A1").Select
Workbooks(1).Activate    '1番目に開いたファイルをアクティブにする
Worksheets(1).Activate    '表示させなくても仕事はできる
Application.CutCopyMode = False
Workbooks(2).Activate    '2番目に開いたファイルをアクティブにする
Worksheets(1).Activate    '表示させなくても仕事はできる
    Sheets("MENU").Select
Range("A1").Select
MsgBox "作業が終了しました。
        ファイルの保存はしていませんので確認の上保存してください。"
End If
End If
End Sub

```

バージョンアップ用 シートデータ転記 その3

```

'住所と納税者番号の転記を含むもの。
'このファイルは最初に元データファイルを開き、これが 2 番目に開かれる想定で実行して
います。
'V2.1 から追加した分です。
Sub シートデータ転記 3()
    If MsgBox(prompt:="旧バージョン分(2.0*以降) の
        データをこのファイルに取り込みます。", _
            Title:="準備確認", Buttons:=vbOKCancel) = vbOK Then
        MsgBox "説明書はよく読みましたね。
            順番に実行しないと良い結果は得られません。"
        If MsgBox(prompt:="くどいですが、もう一度確認します。
            本当に準備はちゃんとしましたね。", _
            Title:="もう一度中止して確認してください。",
            Buttons:=vbOKCancel) = vbOK Then
        Dim x As Integer

```

'個別事業所のデータを新ファイルに転記する

For x = 2 To 27

Workbooks(1).Activate '1番目に開いたファイルをアクティブにする
Worksheets(x).Activate 'シートナンバーが x のものを表示する(2-27)
Range("A7:T106").Select 'データは100件までが限度です
Selection.Copy

'新ファイルは1番目を MENU にしている

Workbooks(2).Activate '2番目に開いたファイルをアクティブにする
Worksheets(x).Activate 'シートナンバーが x のものを表示する(2-27)
Range("A7").Select '形式を選択して貼り付け 値のみ
Selection.PasteSpecial Paste:=xlValues, Operation:=xlNone, _
SkipBlanks:=False, Transpose:=False

Range("A1").Select 'カーソルを定位置に

Workbooks(1).Activate '1番目に開いたファイルをアクティブにする
Worksheets(x).Activate 'シートナンバーが x のものを表示する(2-27)
Range("A1").Select 'カーソルを定位置に
Application.CutCopyMode = False 'コピーモードを解除する

Next x

'事業所名を MENU に登録します。

Workbooks(2).Activate '1番目に開いたファイルをアクティブにする
Worksheets(1).Activate '表示させなくても仕事はできる
ActiveSheet.Unprotect

'2005/1 追加 納税者番号のコピーのため(結合されたセル)

Workbooks(1).Activate '1番目に開いたファイルをアクティブにする
Worksheets(1).Activate '表示させなくても仕事はできる
Range("D5:D17").Select '13件分
Selection.Copy

Workbooks(2).Activate '2番目に開いたファイルをアクティブにする
Worksheets(1).Activate '表示させなくても仕事はできる
' Sheets("MENU").Select '事業所名称を登録する

Range("D5").Select
Selection.PasteSpecial Paste:=xlValues, Operation:=xlNone, _
SkipBlanks:=False, Transpose:=False

Range("A1").Select

Workbooks(1).Activate '1番目に開いたファイルをアクティブにする
Worksheets(1).Activate '表示させなくても仕事はできる

Application.CutCopyMode = False
 Range("G5:G17").Select '13 件分
 Selection.Copy
 Workbooks(2).Activate '2 番目に開いたファイルをアクティブにする
 Worksheets(1).Activate '表示させなくても仕事はできる
 'Sheets("MENU").Select '事業所名称を登録する
 Range("G5").Select
 Selection.PasteSpecial Paste:=xlValues, Operation:=xlNone, _
 SkipBlanks:=False, Transpose:=False
 Range("A1").Select
 '住所と納税者番号を MENU に登録します。
 Workbooks(1).Activate '1 番目に開いたファイルをアクティブにする
 Worksheets(1).Activate '1 番目のシートをアクティブにする (MENU)
 Range("E28:E53").Select '住所
 Selection.Copy
 Workbooks(2).Activate '2 番目に開いたファイルをアクティブにする
 Worksheets(1).Activate '表示させなくても仕事はできる
 'Sheets("MENU").Select '住所を登録する
 Range("E28").Select
 Selection.PasteSpecial Paste:=xlValues, Operation:=xlNone, _
 SkipBlanks:=False, Transpose:=False
 Range("A1").Select
 Workbooks(1).Activate '1 番目に開いたファイルをアクティブにする
 Worksheets(1).Activate '表示させなくても仕事はできる
 Application.CutCopyMode = False
 Range("J28:K53").Select
 Selection.Copy
 Workbooks(2).Activate '2 番目に開いたファイルをアクティブにする
 Worksheets(1).Activate '表示させなくても仕事はできる
 'Sheets("MENU").Select '納税者番号を登録する
 Range("J28:K28").Select
 Selection.PasteSpecial Paste:=xlValues, Operation:=xlNone, _
 SkipBlanks:=False, Transpose:=False
 Range("A1").Select
 Workbooks(1).Activate '1 番目に開いたファイルをアクティブにする
 Worksheets(1).Activate '表示させなくても仕事はできる

```
Application.CutCopyMode = False
Range("A1").Select
Workbooks(2).Activate      '2 番目に開いたファイルをアクティブにする
Worksheets(1).Activate    '表示させなくても仕事はできる
' Sheets("MENU").Select
ActiveSheet.Protect
Range("A1").Select
MsgBox "作業が終了しました。
        ファイルの保存はしていませんので確認の上保存してください。"
End If
End If
End Sub
```

マクロその他の説明です

確認用、作業用など一時的に利用したものの名残り'

' Record3 マクロ

' マクロ記録日 : 1999/5/22 ユーザー名 : 小林誠一郎

' ウィンド枠の確認

'Sub Record3()

' Sheets("z").Select

' Range("D7").Select

' ActiveWindow.FreezePanels = False 'ウィンド枠解除

' Range("D7").Select

' ActiveWindow.FreezePanels = True 'ウィンド枠固定

'End Sub

' Record1 マクロ

' マクロ記録日 : 1999/5/24 ユーザー名 : 小林誠一郎

' 列の書式設定に利用

Sub Record1()

For I = 2 To 27

Worksheets(I).Activate 'シートナンバーが i のものを表示する (2 - 27)

Range("A1").Select

Range("M7:M106").Select 'M 列の背景を黄色にする

With Selection.Interior

.ColorIndex = 27

.Pattern = xlSolid

End With

Range("a1").Select

Next I

End Sub

' MsgBox の表示形式確認

Sub NN()

MsgBox "データを見て確認してくださいね。", 0 + 16, "確認 1"

MsgBox "データを見て確認してくださいね。", 0 + 32, "確認 2"

MsgBox "データを見て確認してくださいね。", 0 + 48, "確認 3"

```

MsgBox "データを見て確認してくださいね。", 1 + 16, "確認 4"
MsgBox "データを見て確認してくださいね。", 2 + 32, "確認 5"
MsgBox "データを見て確認してくださいね。", 3 + 48, "確認 6"
End Sub

```

全データを消去するものです 見本分は残す設定ですね

```

Sub 全初期化()
' For i = 2 To 25
' Worksheets(i).Activate 'シートナンバーが i のものを表示する (2-25)
' Range("a1").Select '見本は残す
' Range("a7:t106").Select
' Selection.ClearContents
' Range("a7:a106") = "1"
' Range("a1").Select
' Next i
End Sub

```

R&S 列データ消去 T 列データ消去 に活用
Sub kesu()

```

' R&S 列データ消去
Dim I As Integer
For I = 2 To 27
Worksheets(I).Activate 'シートナンバーが i のものを表示する (2 - 27)
' Range("R7:S107").Select
Range("T7:T107").Select
Selection.ClearContents
Range("A1").Select
Next I
End Sub

```

表示形式変更のため
Sub henkou()
'各種の変更のために

```

'
' 列幅変更
'   縮小して全体を表示
Dim I As Integer
For I = 2 To 27
Worksheets(I).Activate 'シートナンバーが i のものを表示する ( 2 - 2 7 )
Columns("U:V").ColumnWidth = 9.5
Range("a1").Select
' Range("C7:C150").Select '2000/5 縮小して全体を表示
' With Selection
'   .HorizontalAlignment = xlGeneral
'   .VerticalAlignment = xlBottom
'   .WrapText = False
'   .Orientation = 0
'   .AddIndent = False
'   .ShrinkToFit = True
'   .MergeCells = False
' End With
Next I
End Sub

```

A列の7行目から106行目に1を入力する

```

Sub suuti()
Dim I As Integer
For I = 2 To 27

Worksheets(I).Activate 'シートナンバーが i のものを表示する ( 2 - 2 7 )
Range("A7").Select
ActiveCell.FormulaR1C1 = "1"
Range("A7").Select
Selection.AutoFill Destination:=Range("A7:A106"), Type:=xlFillDefault
Range("A7:A106").Select
Range("A1").Select
Next I
End Sub

```

'A列が13の場合、J列を消す

Sub kesu2()

' I列データ消去

Dim I As Integer

Dim J As Integer

For I = 2 To 27

Worksheets(I).Activate

シートナンバーが I のものをアクティブにする(2-27)

For J = 7 To 106

If Cells(J, 1) = "13" Then '計算方法13の耐用年数を消す

Cells(J, 9) = ""

End If

Next J

Next I

End Sub

以上、シート編の終了です。

平成21年2月26日

小林誠一郎